

再

江戸砂子

牛込
市谷

四上

柳
岩
熊
谷

再校江戸砂子温故名跡誌卷之四

古沾

涼纂

緝

恒足軒再校

冬涉

訂正

豊嶋郡峠田領

小日向

關口

雜司谷

(三)

牛込

高田

市谷

大久保

同

四谷

内藤宿

大木戸

中野

高井土

多磨郡

同

梅檀谷

佐目河橋

同郡麻布領

青山

澁谷

世田谷

荏原郡

(四) 赤坂

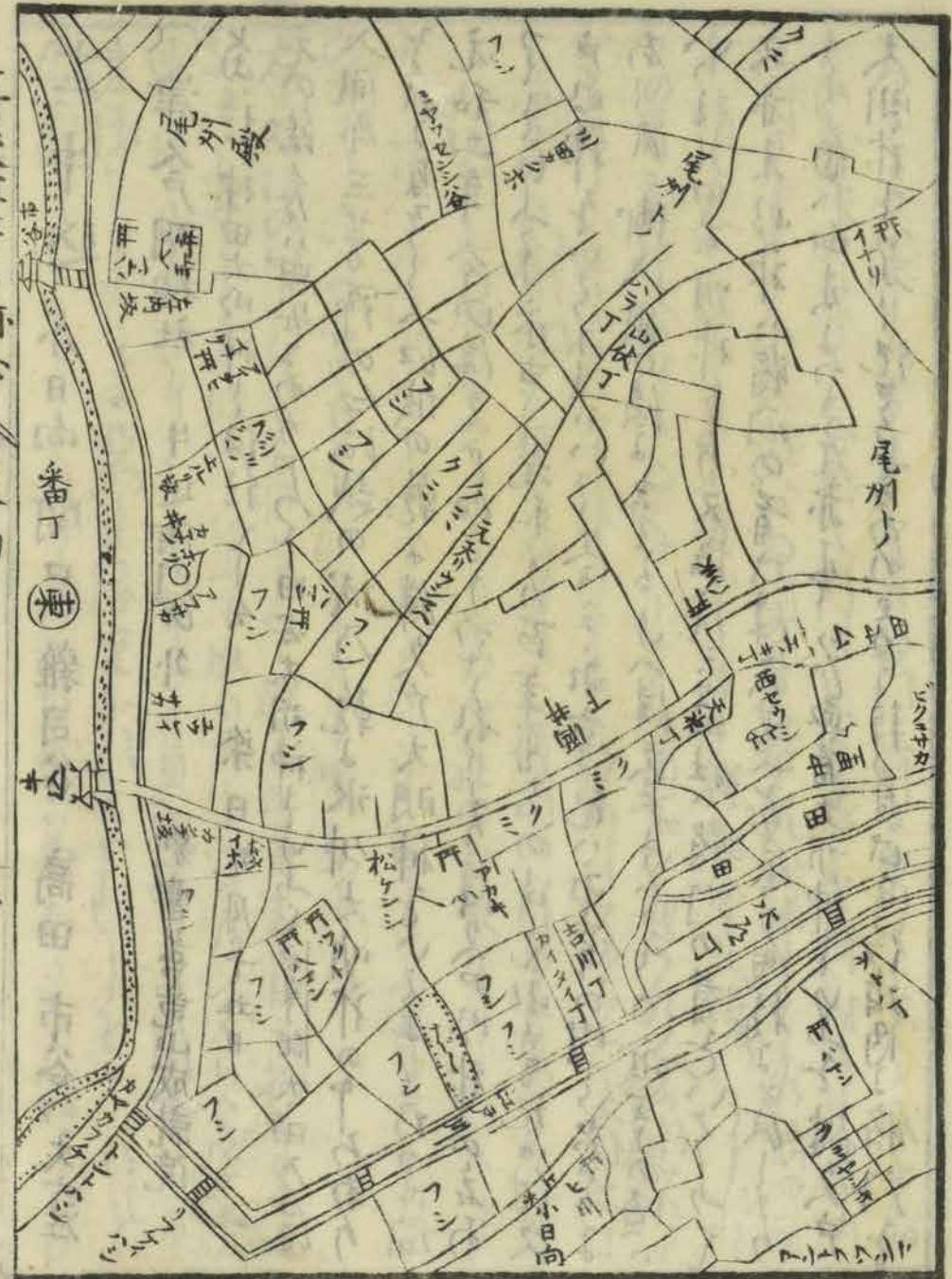
長者丸

牛込方角

平定回疆方略卷之三

卷四

沾益圖
冬涉浦寫



十二 牛込 小日向 関口 雜司谷 高田 市谷 大塙

○津久戸明神社 牛込御門の外
別當善巣山成就院

尚社、神田太郎神、國社、祭日九月十九日

癸日九月十五日

別當蓋龜山成就院

○津久戸明神社 牛込御門の外
当社は神田大明神と曰社である。祭日九月十五日
えの落成は田安より、もと田安大明神と云ふ。承亨記太田乃道
入間郡三里方郷の山に越の城ノ乾より乾より氷川大明神のやうあり
といふなまへに城の乾より津久戸大明神といふ。これと同
元和二年今之津久戸山よりされども津久戸の神の名あ
るよりより永亨ハ元和より百年もあらず。永亨記には久
戸の神をいふゆゑ、いふて名を永亨記ハ永亨の神と申すよ
り。御入國の後より、少くとも津久戸トハさへおきの頃ハ
いづも田安明神たり。又俗説云當社ハ將門の首といふゆゑ
又赤木の神ハ將門の首は津久戸へがまキツル柏木と申すより
トヨモヘ血あよづきて赤木レヒ血首大明神と云ふとは久戸
大明神と云ふ記する事あらう。すばすに府内は將門と

うとつゆ多^タあきハね門^{アキハ}経引^{アリ}ありて近^シ威^ミと
うい鬼^ヲのあく人^民が^{アリ}レバ貞座^{アリ}御^ス御^スくそり
経引^{アリ}レバ^{アリ}武引^ハね門^{アキハ}の事^{アリ}將^レれ出^{ハシ}テ秀^{ヒロ}側^ノ
千^チ晴^{アキハ}と合^{ハシ}一^シ並^{ハシ}トモ^{アリ}。諸^事の^ノ人^ノ皆^{アリ}之^ノに
その首^{アキハ}部^{アキハ}のほ^{アリ}事^{アリ}を^{アリ}あ不^{アリ}と^{アリ}思^{ハシ}人^ノ物^{アリ}、
ひまわ^クく^{アリ}く^{アリ}れ^{ハシ}。け^{ハシ}く^{アリ}わ^ク。よ^{アリ}ら^{アリ}天^{アリ}延^{アリ}大^{アリ}止^{アリ}。
もや^{アリ}る^{アリ}處^{アリ}思^{ハシ}り^{アリ}く^{アリ}。く^{アリ}得^{ハシ}門^{アキハ}の^ノう^{アリ}と^{アリ}で^{アリ}
ト^{アリ}小^{アリ}詞^{アリ}と^{アリ}わ^クの^ノえ^{アリ}と^{アリ}。お^{アリ}諸^事社^{アリ}の^ノあ^{アリ}貨^{アリ}と^{アリ}い^{アリ}と
ひ^{アリ}持^{ハシ}る^{アリ}住^{アリ}の比^{アリ}。家^{アリ}無^{アリ}お^{アリ}外^{アリ}守^{アリ}と^{アリ}す^{アリ}て^{アリ}九^{アリ}
の九^{アリ}と^{アリ}よ^{アリ}す^{アリ}。江^{アリ}戸^{アリ}十^{アリ}里^{アリ}。

右の竹板のひしも古役され改を血首赤身もおまの花
あく上半赤坂山とひふれあいとする。又曰鹿、奔
御討ひ下りてよりうよわ。貞慶の太平園香が當帝
陸揚なり。あくよむと縁室られしやじとえり。
今既に不考くしてかく火貞慶之父のあくと転んとの

あわてて軍うち秀郷へ下せんのをかと今せよお
つとけとそとそり将つゝ首のとがひをもほす人
うすに記すがれくとよしめは一部を後
もよぢきゆうざれくとよしめは一部を後
ちねとせよせりやじうとえよの事いふる等
とくのとくん人らととまむ

卷之三

同前

別當松雲山妙量寺

○神樂坂

牛の門のじ

逢坂

中華書局影印

英勇故道場の手

堀う孫の井町より赤坂御門のうち園部家中きの
西の谷よりともりの井よりとく又近年に
一書ありと嘗何よりはおどりの事は井とすな黒
人出するくじくじくじくじくじくじくじく
のすあれと信がてたるすし▲あ枝千載集乃歌いす
といひれと改志とく園主と附

○仙臺橋 俗にとんど橋 江戸川の爲口よし

松平陸奥守教洋茶のみのやうりの駄橋と云
橋の下 大やきの捨石ありてかねもさわら少く世俗
よどけ

○飯金割 どんどうのトにあり

むづくぎき始ぬよけりて飯金と洗せよ 鹿く
やく飯金をゆすりとまの飯金よすれて死せりと
立慶橋 おみけけの太橋長ちを父立慶と號ふ

立身する。きもの格様を見て御感のなまくと拜顔い
つも上意をうかがひれりそむくいひすハセリ
○御殿山 ばたんさんのお
むす小日向義忠の附けよとひきて田とくらむ地
今もそこののじのむねこまく

津溪

ゆ
ゆ

むしりは世の如く津うりをあわいてゆるもとゆつ
み野あの中一キ六段よたら一ツよりすもあ
水やれのやきよふむすびにあぐのあむりと
へじきよ奥平隼人より浪人役り奥平源八りよすの又
の歎うきて奥平信玄夏月か記ちたり一教力とありせ
ま後五十人そりとも寛文十二年二月二日のあつま
入るおり隼人侍役も隼人父幸多半舟入道三男九郎吉端
かけ合ふ者とつてもぬあ人まよはれぬ原へ方よりむしり

かへあり、これをうへて降りての下まで近づく。おはの
くとわたり草人ふんどとすり新矢十四五人を追
かけ牛の市門のまゝく。此日おもとをうちほへたる後
よりて、一入とれくにし。草人源八つをもくさき
志もとえり。田町のやのゆのゆ野へあらう源八つがく
いじ入首をもる源八つの付十六罪なり。牛の市門のあ
がる。古の朝日の出時もよそは。日本の人アめり。もとそ
の後源へ糸記は。もとまに伊豆の大島へちよよこ。もとは
やまときて津みり坂のひだらぬものぢ宿す。まく
ほくねく申教をあひ——

右二人のまゆぐり成被事より手仕事
津うりほのすお板の便えにしおとよ天台宗光円寺ひふ
よちくのまの幸の幸を葉師へむけ法をもくと、行御ゆ
くまき葉仕事とぬ樹林板うち牛の(まど)人さむへ
元和の付みりんとわれとあ方津福陽世界のさむり

平陽府志

元

○行人坂 俗よゆき坂 がく坂のすゝゑ
ゆきの坂はあよき坂へわが家の流より出るよ

○富士山の巔を吸ひてゐる雲がうつり今爲めにあつた
○若宮ハ幡宮 小坂の入 別名光明山普門院

山川男山よおみ 又仁徳天皇とねふれりと云
和漢三才圖会

利漢三才圖会

支那の政治家が興味を覺へて、之を研究するもの
後建立ゆくトス當社ハ文明の進歩ハ大社會ハ神代
有りて英霊也

○市多喜河岸 牛の浦門の下へ墨脱市多喜後の中き
りのふいとて不見、市多喜厚木より

○大友の松
○からそ坂
○かく坂とえんじ代の間

中
一
き
ハ
海
松
ま
の
代
し

草川藥師　茱龍山光圓寺正藏院　上野末　牛込

卷之三

太田道灌建之

往古ハ平河梅林吸子わく且後田主よ移え初の夏又ハの比
フテテモ西寺400年ものも相承トリヤアノ事外ガニ
引カニ因故ヨ一併トモアヘテミハ台祖侍教大师一刀ニ此の
革師伝ヒメ子教子シヒマセア因故モ禄ヒ年半一卒ト
造ちテの後大田道清上杉朝良基ニ山家モウシケル牛
王の宝印と後トモシテノシトムニ牛王の字を傳すト

○赤域明神主

牛込上野末別當山櫻山等嘗見寺

上野國赤城山三夜沢神と御詣とあり也。上野國
大胡峯陸より人むく赤城と云々信一 大胡、御詣

近戸明神よりてへりふわく西社の太胡坐主の本院
牛込忠左衛門より人先祖の伝仰あり。神奈川と上川の
社とし。牛込の法事と千又鷹弘とあはの神事とし。り
日光山記 下野二荒山今日見上抄雲赤城山の神と二荒乃

神と中の湖 中津さの池とあるをひ二基の神ハ蛇蟠と木赤城
の神ハ蜈蚣と虎とめりおにとあり蜈蚣ハ神使すアリ
神社よあへれ 祭礼九月十九日 隔年 並社同代ハ牛込門
の因寺本多家のモキナレ所今もの方より其の根あり是
社の神小なり牛の行えまの法ヨミ云ひえも首の神モヒリ

○牛込氏の墓

宗參寺にあり

其墓碣は大胡太郎重俊の裔宮内少捕重行武川牛込の
縣より後一その後勝行の代より本多氏康より属しもの也
名字不詳と今御幕下牛込の家の先祖たり

牛込氏之祖の法名宗參大庵主トシ

○氷川社

上みのそく

○慈崎

由氷川の名よりありの所とい

○金剛寺坂

あんとうちよりは院あり

○新坂

又印支丹坂より小日向上水のそく

補

はもよむ切支丹をも改姓のモキナレ史氏のモヒリ
も又切支丹のモキナレ少年のモキナレをも別よ寧と立
へどもかくゆくもり、一説よほ改姓けり、一く土もり、
モキナレモキナレを後へもくくりてもくよのモキナレト
ちうてりふりゆくゆくしんゆくひくばせ

○服部坂

河原のモキナレあつゆきひづり

○くりき 櫻町毎天のあと

の取り上りす文字も又モキナレ

○惠中和尚舊少尉西岸董 葵草山

東北のモキナレモキナレモキナレ

○江戸川 上ゆのモキナレ園口のち後堰はもつれ

○目白不動

東豊山新長谷寺 真言

閑口

奉玉若人不動弘法大师の作 喬殿山より大師形刻
二龜のモキナレ一龜ハ葵草山の龜トガモリ一龜ハヒヌケ

中興開基長谷妙音院小池坊秀翁修正
元和四年再興く あ寺の様あり

蓑笠掛の根

すきのあゆ

縁起口 あるる野州足利行基のかよりゑのくわく
武州東京郡國の住人木村氏も其の子
あらり生る傳ふと出でましむらをかぶれと先ずこの根
よりくねはげ山よりあくべーの古りと以て波神石と云ふ
ノタケは北と立の附一あると延々

寒いの脚を湯の附本ると開扉ありて城南の日暮

半

目白坂

ちね所

釣竿

とく

○掃部掛

ちね所九丁目よし

とく

○八幡宮

竜泉山洞雲寺持 美穂

國口

○上のえ

國口の落

開山鷹潭禪師 中興石平和尚

○椿山八幡宮

左同寺

童尼庵あり

下の宮と云奉祀上下隔年にて 善所椿多

○水神社

内境内より水開てより 国口水門のと後市く

○胸突坂

椿山のと 国名の坂後河甚多くともあり

○扇坂

ちね所七丁目の

○大洗堰

目白のとと上水の大堰

○上水

水系ハ堵門他より流る至て清潔にて旱澇も潤

す

る人之御入園の砌仰草子師大久保う水先祖をほく小石川

上水のととトと坂よ主水と名とトする

と彼家傳のと

としきと実りと此上水のけめハ古きよりと前坂

の後日と遅く江戸に繁榮して池水もりて不達

せりかよ美濃應永中と助水

玉川、河越のとすと多磨郡へと大河へと度御の

川へび川へ流のあ六御へある矢口の渡も川口日幸六

山川のひづれをもきらめかと 山川點は川のふ物
拾迷

山川よちりそよつうくくよむの人の乃高きやけそ

○禪宗佛閣 牛込 小日向

○蒼龍山松源寺 妙心寺末 江戸四ヶ寺の中一代茶衣 牛込

開山靈鑑普照禪師名宗丘字蓬山俗よ長刀蓬山と云

△聖觀音 弘法大師作 山のす三十三所才ニ番

俗よ高寺と横寺とよりひし院内よ信とつかましゆ

○陰涼山濟松寺 円末 寺領三百五十石

板丁

開山永南和尚 円基祖心禪尼 は門前ハ支禄の木大友氏住林

の比甲州寺先年ハ猪裔鷹ちり

△御佛殿

廿日 別當

芳心院

寺領二十六

△鳳凰池

御臺脇の前より

△靈龜泉

塔内にあり

△開山塔

難春院

塔

寔性院

徳隣院 高僧行 玄光院

○龍峰山保善寺

甲州 あ林院まち丁

○福壽山南昌寺 玄祥院 戸塚

塔

盛院

○龍谷山田中寺

大法寺末

通寺町

寛永の頃御衣持の時此處ノ御腰おこし御茶おちゃ御
めりりげしれ寺そと御尋めぐり定わるふもいとこ
とやうよ四方と 御贊めいさんめりく田のすよひのむちりと
田中山田中寺とトヘキノ上までりてす

案一本

○安國山慈寧寺

関東曹洞宗僧隸三箇寺の一 小日向土水端

開山通幻和尚

寺領百二十八石五斗余 緑州田府臺宿寺

元ハ江州より正親町院御宇天正三年乙亥小田原北條氏政の時
下総小国宿よりうその後同小国府臺より始

○雲居山宗泰寺

寺領十石 吉祥院 幕天町

開山看榮禪師

牛込氏勝行文重行菩提のめ天文十三甲辰年

補

建立美田四十解と寄 雲居院飯前大胡太守實翁宗義大菴主
天文十二年卒これ大胡重行の法名もあれとぞりて山寺号しれ
重行ハ秀郷の後胤上林も大胡城主大胡太郎重俊六代の孫也
武川牛込の城よりを嫡男勝行天文二十四し卯從五位下より任と號は
大胡とあらへ牛込氏として

○夾山寺 吉祥寺末 戸塚

○陽祥山鳳林寺 円

牛込

○正覚山宝泉寺 円

牛込

○る田山正覺院 経泉寺、原丁

円

○極巖山龍門寺 円

牛込

○安寧山清久寺 円

円

○久宝山万昌院 上林

長年ち、

○護心山長源寺 お井

弘弟ち、

牛込

○起雲山大竜寺 瑞國ち、原丁

○就洞山松雲寺 長於ち、川田、窟

○南谷山淨泉寺 経寧ち、牛込

○比翁と津泉寺谷

円

○金谷山室禪寺 下経東昌ち、川田

○寺中南昌寺

円

○松慶山宗勝寺 保名ち、名田

○泰國山長昌寺 長祐ち、南ち、

丁

○日輪寺 吉祥ち、吉田

○南栄山清光院 田光ち、

円

○月海山法身寺 瑞然ち、原丁

○圓口山永泉寺 天祐ち、

円

○天壽山永昌寺 遠命ち、円

○妙法山德雲寺 令剎ち、りくら谷

円

○見龍山天徳院 吉祥ち、牛込

○長光寺 宗泰ち、大久木

円

○富國山長久寺 遠命ち、原丁

○善光寺 円

円

○鏡翁山傳明寺 令剎ち、ゆき谷

○陽鳳山祥雲寺 吉祥ち、小日向

円

○惠日山金剛寺 吉祥寺末

○開山用山和尚

円

○透曉の本像あり 入透曉菩提所ハ岩剣の岩勝ちりりりと
幽寺前の坂と令引る坂と

吉祥寺末

円

○正覺山月桂寺 蘭金田多寺末 寺从百石

○寺中元布合よりて平安寺よりて喜連川の菩提所

川田、窟

○幽寺ハ元布合よりて平安寺よりて喜連川の菩提所

川田、窟

川田、窟

補

明僧し末喜連川御嫡女月桂院禪尼ハ十八歳にて卒去南
寺す。葬るより月桂寺と号。塔院松外院。卧童院。
△安産寶珠。是の氏より基所所持の。故ありて此寺の
什室。小と號る。小と號る。是の雍産の。ひくとりよもと平安
寺といひも出産平安の意也。

○ 泰雲寺

黃檗

圓山鐵禪和尚 中興千山和尚

三四言合

○ 天台宗佛圖

○觀音 俗譜懸觀音と云。牛頭山千手院行元寺 上野末 香町

開山慈覺大師

寺領十石

本多千手觀音 慈心作。源賴朝。持佛

往古、大寺に慈門、牛込門の内から後ハ中門の西そだ右より
南天の並木。爪俗。南天。し。地域の神
川。高きの山。ものと。奉納の大般。往々。より。川

○行元寺。法名。記り。と。大水の。失れ。半。は。彼壊せ。

○閻魔

高榮山般善院平川寺 上野末

も丁

運慶の作

當寺。もと。平川。う。し。

○高躍山三光院

上野末

ち丁

○宝樹山泉藏院

同

ま。さ。丁

も。す。丁

○堅光山安娘寺

同

同

○善童山成就院

同

も。え。す。丁

も。す。丁

○佛來山宝藏院

同

改代下

○東光山泉藏寺

同

白。じ。丁

も。す。丁

○東曜山宝童院

同

七。ね。子。

○松雲山無量寺

同

も。す。丁

も。す。丁

○覺王山妙足院

同

赤。け。子。

○稻荷山長壽院

行。え。ち。改。代。下

も。す。丁

も。す。丁

○樹王山光照寺

傍。上。末。

店。

○光明山大願寺

赤。恩。一。と。丁

も。す。丁

も。す。丁

○不退山正定院

同

も。す。丁

○一心山專念寺

傳。通。永。丁

も。す。丁

も。す。丁

○金剛山大信寺

同

も。す。丁

○護念山宗因寺

海。養。一。柳。丁

も。す。丁

も。す。丁

も。す。丁

補

- 崇松山法正寺 円 因 小日向
- 中臺山光圓寺 因 小日向 ○安樂山還國寺 因 水乃瀬。
- 室國山大泉寺 因 國口 ○法樹山龍國寺 國口
- 玉樹山良念寺 法傳ち、小日向 ○法禡山法圓寺 传通、小日向
- 青木山深光寺 传通、因 ○生西寺 因
- 智鏡山大圓寺 因 ○嵩雲山來迎寺 若狭ち、牛込
- 法花宗佛閣
- 本光山清說寺 中山、赤城 ○長久山妙泉寺 玉置、 了田
- 松栄山大法寺 小湊、と丁 ○長久山常立寺 平櫻、承丁
- 常泉寺 因 承丁 ○正榮山佛性寺 中山、あ丁
- 樹山宗柏寺 承 まつ と丁 ○妙法山圓福寺 因 牛込
- 正定山幸國寺 小湊、セケシ丁 ○常榮山淨輪寺 池上、七ヶ二丁
- 日陽山崇光寺 因 小日向 ○如意山亮朝寺 刈延、 戸つゝ
- 万年山清輪寺 不二 本つゝ、ま田 ○長久山奉松寺 五次、 了田
- 奉妙山感通寺 小湊、と丁 ○云玄山妙照寺 京 妙まち、とせ 田
- 福應山蓮光寺 正午四 本成ち、川里窪 ○昌遠山正法寺 因
- 妙法山蓮光寺 小湊、音羽丁 ○上行山久成寺 京 上げち、川田窪
- 法光山久成寺 正午四 七ヶ二丁
- 泉光山蓮花寺 不二山本門もま 寺以三十石
- 正定山幸國寺 小湊誕生ち未
- 萬壽寺ハ紫藤肥後守清正の建立し日蓮上人の像ハ室暖よ衣服と改る。池上小五郎一清正の息女阿部家へ嫁せる。今りは故ありて阿部家よりたの玄孫年号附ありとぞ
- 真言宗佛閣

補

○神齡山護國寺

寺領千三百石

音羽町

七ヶ二丁

奉る馬脳石如意輪觀音唐佛 元禄年中本堂御建立あり
前のを坐しハ舞其のうらむことよりは比もとハ御茶園
うやく建立のとき御茶園ハ白山へより

奉る馬脳石如意輪觀音唐佛 元禄年中本堂御建立あり
前の左坐は舞草のうら坐してよりは北もと御茶園
うらや建立のとき御茶園ハ白山へうらより
此本尊ハ人作よりする御自然の像で御心の觀音也
とくえ深のうらは前川某不思議の像と傳承すあら繫
隱え和尚のすすめ湖音和尚ハ服後農寺の主也うら頃
上掛を徳よ徳と新川某と師母の縁めれく此幻像と
湖音すあら湖音又子細くもと奉りゆ信仰ある
うらに於て御茶園と称せられ其地トキモと達らね
けよ像と安置うら後水まとうせりれど
お寺は茶師堂のうらすあり神農の像ハ御茶園の時
とうら不思議うらり

○筑波山護持院

寺領千丘百石

同
可

始より足院と云ふ山井町にありて、品波を至間の宿すゝる
年半前建立計田様の手によつて、享保のけりめ回数

三

の後南所護る寺より

閑基ハ和州初瀬寺中西義院は後職ありト、石より
て江戸ヲナリテ御帰依ナリシテ山石井町ト並布若波山
の宿寺古事ニテ知足院ト云。トメには寺とアリ。トテ
リテ行持院。知足院。トテ多え縁のはため神田橋。橋乃
外陣堀通武士尼寺サ新商人ナリの役者有ノ。町と村
一寺即建立あり。之縁山護持院。トテ又護持堂と申立テ
本堂。ハ釋迦佛と毘童子。又地坊と
お對。又長谷。派焉言宗の事業を裁判セリ。トモヤニ年と
て享保二年正月廿日大災よきうて坐塔悉焼失。モタルの後
護心寺と半ノ。川も。山也。河。華山。泉也。水あら。モ存
○惠命山圓滿寺曰。牛也。○明王山西照院。宝泉也。牛也
○三明山千手院。然也。七也。○蓮花山全來院。宝仙也。も田

本多某師如來ハ天台四明の洞乃石と彫刻シテ之を盡像
弘法大師の作也貞享の始御幕下須田氏おさめり作也
△法守縚荷ハ太田道灌の勅請し桑の木縚そのの奉社人と
従古市谷町の通とあり元和年中今之境内より二町小字
○松井山龍泉院 藤原、青羽丁○ 多聞院 瑠璃、七五丁○
○報恩寺 所室、根奉丁○ 龍音寺 優、上戸、
○玄因寺 丹波、大夕ホ

○一向宗

○傳久寺 東 四至甲子 ○太子山慈吾寺 东 可せ田

○今惠山常寂寺 日出丁 ○高源山本法寺 日 小日向

○称名寺 西 上水口

○雜司谷

○威光山法明寺 法花宗 寺領十石

○威光山法明寺 法花宗 寺領十石

開基日源上人 あ寺もと天台示もと開山慈光大師也
と、(り)日源上人後世山石をとひて河口を日蓮上人よ年賀
貢子とすりてゆき寺と付て法華とひろして云
△日蓮上人の影像 諒食式部卿権僧都の作

○鬼子母神 塔院東陽坊大行院の持

天正六年日照坊とりふけりくの村よりりくあちようす

○六老僧の寺 東陽坊

法明寺地中

六老僧の像あり各日蓮上人の附す也

六老僧ハ

辨阿闍梨

玉沢 日昭

白蓮阿闍梨

富士 日興

大國阿闍梨

池上 日朗

伊豫阿闍梨

真間 日頂

民部阿闍梨

茂原 日向

蓮華阿闍梨

貞松 日持

日源

日家

日傳

日法

天目

日位

日常

日保

日秀

日祐

日得

日弁

日合

日禮

日賢

日恩

日門

日高

○六老僧 中老僧とも小日蓮上人の附すく
○九老僧寺 日利 本能寺

日朗上人のす子

日印

日輪

日善

日傳

日範

日證

日像

日行

朗慶

補

鬼子母神 義陰も、ちちもろく翁諸常々群をかす此の像
と俗よ楠河内橋ひ底の舟の舟をもとよりひる人の曰鬼子
やまとざき人の拜一たすふる。像の背よ楠舟と云ふ。あ
まとのくまひりと。俗役もこれよ。しらむれ
△路鳥明神の社 岩子母神岩のあひづれ危険を
いのうよもくわへと大己貴命の臣稻荷命なりと
大己貴命醫術と役ももよすわゆ。ゆへよ

彦玉檜尻

法のまお

日

弘巻川

はのちもの細原とそぞのゆとあつす

○星跡清水 渡ふちと難田谷の田乃中一の茂ねあり
里後山曰鬼子母神出現の所と。弘巻川の流のくも
夜あくよ。此川は日没くくりると里人あゆと甚川と。あれ
鬼子母神の像あり。後よ日照坊今の前へくすりよ
△鬼子母神のあ幸町ありそくのくわゆあり

○ 雜司谷八境

星跡清水

御獄夜雪

姿見橋鷺

弘巻川蟹

感光山花

三島神難

鼠山木玉

嵐山名桙林

池谷

池箇谷月

○三島神木

まる田の方上ほりの島大核

とて社ハ

○ 高田

○ 戸塚

も田のくも古廟よと西此の立委よとて古

本の志ケリテアトアレシキニハアリ白狐ナシモタク
戸保ナリテモトキシセム役シモトキ孤塚ノツツマリ
里人のミ宝泉寺の様のミタリト

○姿見の橋 又付の橋 又推掛橋

ミリハ付の堤より

○落合 三昧 三田の因

○落合 三昧 三田の因

補

付の橋ナリニ町はうつ川上と水門と難司谷の細流との間に
此所の草木ノ木れ木太ヘ

○七曲 ハナカタ九折の河

○あいの町 風みの道宿町

○比丘尼坂 中里の南組やまきの内をモトの坂に江戸めぐ
るて此坂ナリ江戸國より比丘尼方と記セリ河原アシルトナリ
やマリトナリ近宝三江戸絵図より比丘尼坂トナリトの後の圖より
比丘尼方トナリ又比丘尼坂トモリ

補

○舟山 中里の田舎くじり一町御茶屋あり毒蘿軒

と号させしも又達觀といひ一御堂樓モウツクモ

○高田馬場 場所廣一 昔日源頼朝之隅田川合戦より勝

利あり此所にて勢そろへりアリヒツツ

○和田屋敷 同所屋陽云かトヤキの所となりたの内のみ

ヨリヤ屋陽云中山キハ高田山の脚ヤキトリ一

○蕪食街道の址 三田の屋陽の南屋陽云中山中キヘリ

ナリ細の向一幅五尺ばかりの石あり里人ナ付古板橋トニ

テノ付至のミチヒツヒツト

○穴八幡社 三田戸塚村 別當光松山放生寺

じ一ハ茂木山ナリト里人伐け一トモトの木のミ乃ニ
ねれ寛永十三年にあらうて中良政松井豊五郎直次のちカニ所
そうちの皆吉行レシラ矢の神され、福文を勅請せ奉候すわづ
市御前日毎トニ奉て二年の木をよき木御納文アリ新向うスリ

もるいち二重の松と木やとあらを井としらの内十八年已
年用は因山口ハ愬の氏人良昌修却ハ毛利かのトヨ
ハ根を何事アリ遁世一回小り御トテあふる事ア新河谷
市茶園の主にやアモリの後中野宝徳まよ入ヒ下秀吉
のとみトヨヒテトマリテ社侍トヘシ秋多彦と
じもんと地とすもよ城タケシムの底よりさき
穴あり口セキテ圍フリカスアカスアラウチイセ
ラスモウの佛像石上モナリシテ良昌さんとまよし
ナムクレホト穴ハ福と云との穴今にあり此山の接道には
山寺アミタ院と名付ケル所のあとノアリナリモサル
トナリセキモ大社モナリ
は古事記と云ふ地をアリテアリテアリモナリ
今にアリテアリモナリハ福の事也ナリモナリ
アリ

△老松 神龜のあらひ一ニカモのね入り
△放生池 ハ愬のひととの池

△毘沙門 天言 禅英山宝泉寺 上行末 う田ら
本寺を毫太郎の作田原秀郷の守備シテ
△高田稻荷社 境内ノモリ

文永元年上行治引捕友良多アリテ勅清トヨ
文永十五年四月左近志引根の根アリシテ御と
ヤシモのあよす。アキモとの漁アリ放シ傍水アリモナ
△千歳の松 芳島モ思ひれどもアリ

△折陽ノ池

後角アリアリモナリ

寒冰のう井の井の井の名と呼ナセシアリモナリ
ナキモアリシヌ、トナリヒテトナリヘテト釣令アリ
△富興行隔日十五日高田陽高天神社社モ無リ
△當面杜鵑の名アリホドアリモナリ

○二國傳來觀音 淨土 雨寶山西方寺 增上末
印山亨著言貞義和尚

淨土 雨宗山西方寺 增上末 高田

當寺千手觀音ハ弘法大師入唐の付唐青竜寺惠心果和尚中天
竺のヨウ像くして放」と云ふ所大塔ノハコメドリ。寛永五年
う御山の林原に流水ト云ふ空言ゆ所あり大師拵修ニ奉事。因縁
トありて流水宮。圓小の段式別院草堂の事より。御寺
高木。カモウノ御山。貞義の放くして高寺のヨウ佛。ト
五留榮

○九智如來

淨土 龜茲山誓願院寺 灵岸末 日不

開山本食本誓上人誓用和尚の作五智の大佛

幸少のあよ大年の様あり

じさくちあねと沾涼妻の祖父は只空家一人ものあゆきの櫻
越とて桜一束と抜玉とばかりと編集のころなりすうと
ばさくとえりと考へぬ桜と泥と段角がありましれども
寛のちあるあいとての角枝これと荀く沾涼一功と云ふ

文庫本

(高田天神) 別當真言 天龜山真定院

○落馬山神

○紫雲山來迎寺

○洋國山清源寺

市谷 大窪

(一) 八櫈宮

別當稻嶺山東圓

神轡、馬上甲冑のまる形

文明年中太田道灌持

卷之三

山 稲 岩 集

江御城市再興のとき

あり、大永年中の丘
江御城内再興のとき

乱子破壊による後塵歩のう
立源昌運力と云ふ一書

年々盛んに之の状況を優

△茶の木の稻荷　境内多井の左より　當山の地主と
伝ひる當山は白狐ありてすく茶の木を因と笑うが故
葉といひてしが神の氏子二月三日へ入る事とのまじめ又
眼とさういふもの一七日二七日茶といもて飲むが故にす
るやうと號あつて四倍今うのとく

レニシ平堵の芝草まで行けと往入園の後小西又市安
洋人より仕事手取りて其外甲賀組の毛代りて今
票本紙にて仕事手取りて其外甲賀組の毛代りて今
明暦之丙午年尾陽久へ此地と進むる甲斐の田、牛の地
へうつしハ傳又も繩張のうちより土へ余裕のよ
伊鎧外せしも

(○愛敬稻荷社 別當清雲山無本寺教藏院 言 田町上
え、市谷八幡別当の爲めに、茶木稻二行と申りて、

八幡列坐は故ありくる野山と皇院へ属り今ハ古義より
當院ハ前のあくやくう新事と當社とむら稻荷と云
慶長年中近江公助とよゑの娘二平ニ滿て縁組むるを
坐ひゆく所也とて近江本田氏へ嫁入ふる所也と云
前後あるふりに近江守娘とぞもひよだれど

左内坂 市谷門のひよの坂と云ふ
田のそとは田たぬといふふもす

○甲良益安
左内股の通下
○万昌院田跡
左内股少脣に及下主の付じる宝山ノ内

院ハ上別長年寺の御廟也の事ハ六番町より北へは五
〇長延寺谷　大内坂の小つべ山から延寺谷へは六
〇の町と申延寺谷町といひてゐる也うその余

あがめの事へてあらわすもそのはまでりまくらゆるも
尾陽市中全若のうへりあひたうすかのけりにあひと
とも安政彦宣御氣をきれよすみあづのはうりと
前枝ひそと津島寺命と傳う

補

○加賀金敷 尾陽市中やきの小
（かひへ岸附乃所廣義元年冬
田原の後を野山ふる傳と云ふ）御宇敷め
了（や）てうれりあり

尾陽市中館西隣松平流ち後中まゝ内西北の組
中き大隅同商家本明和五年尾陽市中館の添地
○般治坂 本村武益大掾惟久の般治の傍にあらじ
○洋泉寺谷 柳町の小南谷山洋泉寺まゝ御林あり
○小栗原 本村松平中務を廟をかずさみ前
ちね君の子のあゆ勝浦せうらの里

補

○合羽坂 日下
○念佛坂 内下 谷町とのやく坂
○まへだる谷 町下四丁町本多伯耆守下ト中ま通下
○や（や）ヶ谷 本入（いり）入りの谷
○獨（く）所 口而四丁目尾州市中一ノ孤
○久能町 ○十騎町 新本村の名を継ゆき
○山伏所 あ山先達何系は下竹下山原の山せ田（た）
○太神宮 山伏所 法元勅謹の社
○西根来 本根来 同上
○七面社 法花 春時山法善寺 池上本 大木本
（接地）本根（もくねぐの）のうち於院の北に御所の傍（わ）あ殿
山（さん）あ社（やしろ）
あ社の傍（わ）あ社（やしろ）人多（ひと）多（ひと）

補

補

御と遊ぶ事ハすれども御山川御
敷山日暮里の御社の人多

○大穴瀬天満宮 聖護院派別當梅松山立大尊寺大聖院
北野内社 東帝の神碑ナリトニ一名東の天神ミテ來由
モアリテ又西向の神社ニテ社西より少の信語ナリ
法皇ハ人皇三十代後堀河天皇安貞年中明憲上人
新清丈僧都玄信中興モニ別當大聖院ハ而テ護院山
門跡直未天皇モニ承ム大先達トニモ奉の江戸役取
サリ前あゆハ松緑山梅香院トソリ

大窟の法事祭礼九月廿五日 隆年

七面の社ノ社と名をもて同境内乃

○大穴瀬稻荷社 別當二尊院 七面木の町屋
奇才天子相處シ

○梅の木 城下付十湯所のちよりより谷へ出る所

補

補

○立が坂 仁和のうち西谷川町へゆる
左谷川林ゆりて川の谷と底の谷の入る所とハたあらず
○牛小屋 七軒店 市谷より西谷へゆく所に城御築乃
ころはきよし石垣のふと引ひ牛と紫の木とあり一說
御上路のとき御車の牛を立さむ わくわく

○諸宗佛閣

○七寶山藥王寺 黃壁派

当寺もとも言ゆ事く退耕ノ弟高庵とクリーとス縁の近
黄壁凌雲和尚五通此教江府より十八巻うつて各寺より
前板ノ御朱印百石もありて寺外ハ御帳面もわざり才絶
以後ナリヒハ格武もくりびとありこれお板の信語
市谷より寺同名ニ寺すありあるを知れ此の寺と云す乃
ありと清江和尚守墓とは後云ハ信州の寺也

市谷より

補

武田典鏡の母の湯谷より、かく曲の瓶の御持と曰ふ。小
諸葛洞宗が海宣化をして利媛後まち禦ゆかくかほが
出でてその房と称す。まよせんすと稱へてはゆ故ありて成
る。其御名をつけて、けり江戸八重房と名せし。この御
寺をもとす青山海藏寺。源川万祥寺。あらみの山に傍せ
和尚後より御海福寺と名持していふ。

△一本寺師　あまき寺塔内より大塗の像なり。と
セシキ赤坂ひづれより行基の墓のまきの下などと
○清光山林泉院安樂寺　淨土　知恩末　谷下寺吉良坂
開山心蓮社深誓上人貞ら天正二甲戌起立
高麗地にて谷領畠主を攻め入を富州に破けがた人の角と
此富士見坂をよすててき林のゆとり出づはゆすとさう
がくやと小庵あり深參うれと乃そもひどい川の

白狐生れたりとす深參のえびふる寺主の一精金と造立
せし可也。人や白狐がまくべく入地。と治田氏。地
と毛多少ひきを一宇庭を成す。御入園以後府
内市巡行の旨御腰をかけさせし。時曾と西年尾州の
御鉢となりてしの、比へてうるを般化して世秀參とも素の聲と
△稻荷社　境内より當寺の法事と

万治元年五月五日之延向長の老翁あり
縁むしやるもよむに才とほひをもりて、底すみもやせん
といふと白狐となりておもへる。くづのく用の不
ニアノ役まですこえり。白狐サクシトモハナリ升あるとお社よ
がくくく建主をそのあら字田玉家とよ被治は延ふり
一うあく信すやれたの告わうて大笑とやね。小翁を
△八幡子像　雲列の城主尼子伊豫守経久城内持す
△八幡子像　雲列の城主尼子伊豫守経久城内持す

造立其後月輪笠下承宣天工の御より放りて尼子経久の法
ち八幡の本地仏とからハ幡縁起尼子氏系譜あるべし

△阿弥陀佛 立像三尺三寸 雕心の作 京美妙堂の佛と同又
天長七年正月三日受大師江州苗鹿の神より灵木とす。此木故毎年
光ありけりとよまの同よ仏前よりその本一片とみほに彌陀と彌刻
行りを日吉と云ふ事のをもてて。一斤六枚の木の本をもて更年年
とけてある傳ひ有靈感と云其の條本つては像と彌刻と
△引接弥陀 あるの作 △法性寺後光佛 後寶傳教の本をも

△地蔵菩薩 定朝の作 洛陽玉生同木

△舟才天井十五童子 弘法大师護ノ一万坐の灰ともつて造
△海照觀音 ひく夜毎よ油中よ一通の炎行り海士す
る中の陽あいてうつき上あます。ちよし

○口称山住吉寺 四谷遠ちま市谷 ○多念寺 お風・

大クホ

○法化宗

○蓮紹山寒光寺 玉次赤寺内 寺中 常昌院 説印庵 一父景寺
○久崇山蓮秀寺 かく、 ちく ○蓮花山妙典寺 ゆうきん、 ちく
○大乘山往王寺 平賀、 まつ ○如說山修行寺 平賀、 まちの谷

○一向宗

○白鳥山善慶寺 東 まとう谷 ○張法寺 东
○長榮寺 同 まとう ○受雲山淨榮寺 西 まとう

○禪宗

○陽光山遙林寺 かが、 一ヶ谷 ○万乞山東長寺 稔興寺
○万昌山長延寺 羽家 かね、 谷丁 ○永昌山宗泰院 羽井がみ 万松院
○富譽山長竜寺 日小机 かね、 左内坂 ○説谷山洞雲寺 羽吉 宝徳寺、 同
○鳳仙山長泰寺 長崎、 同 ○天長山永昌寺 論昌寺、 同

○真言宗

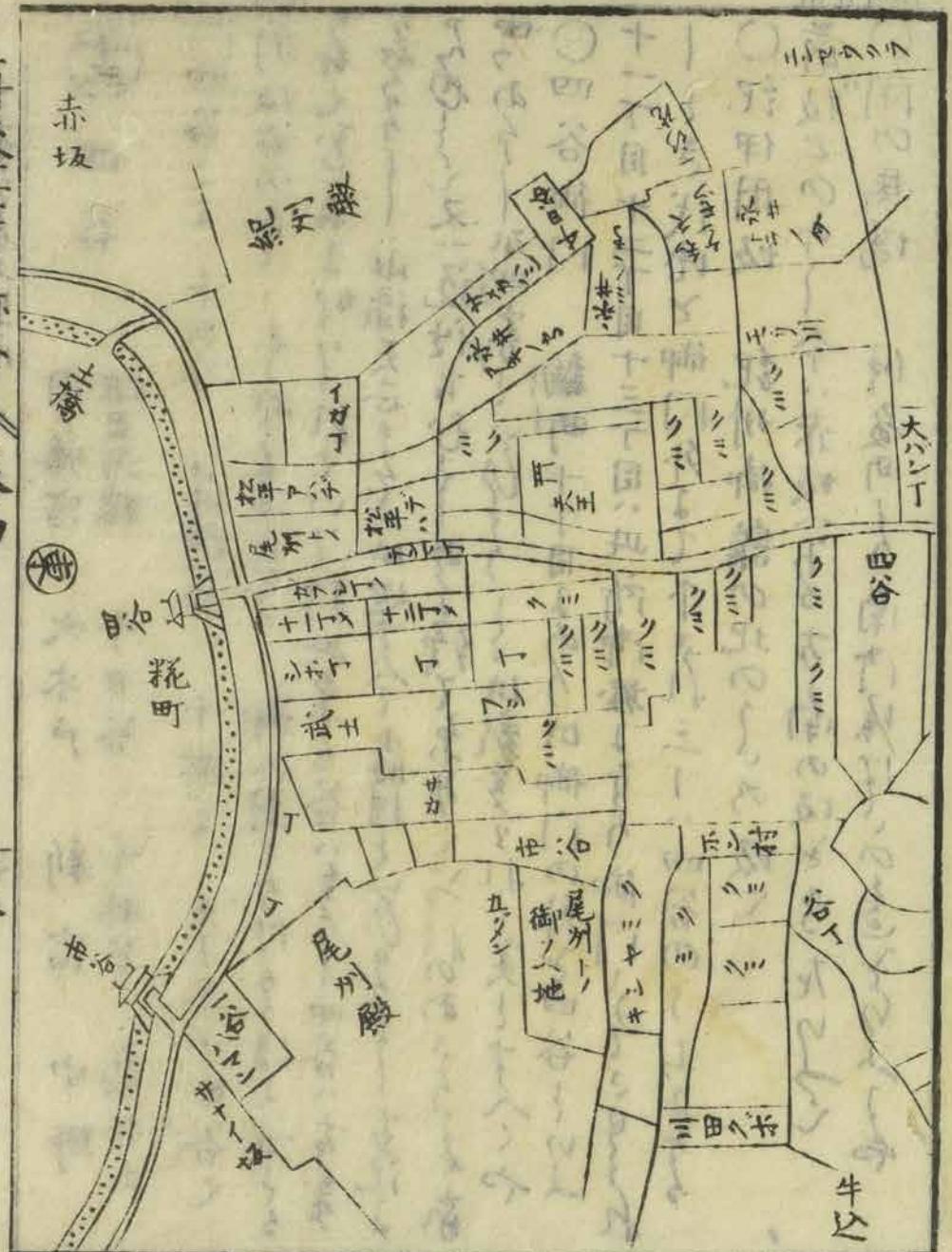
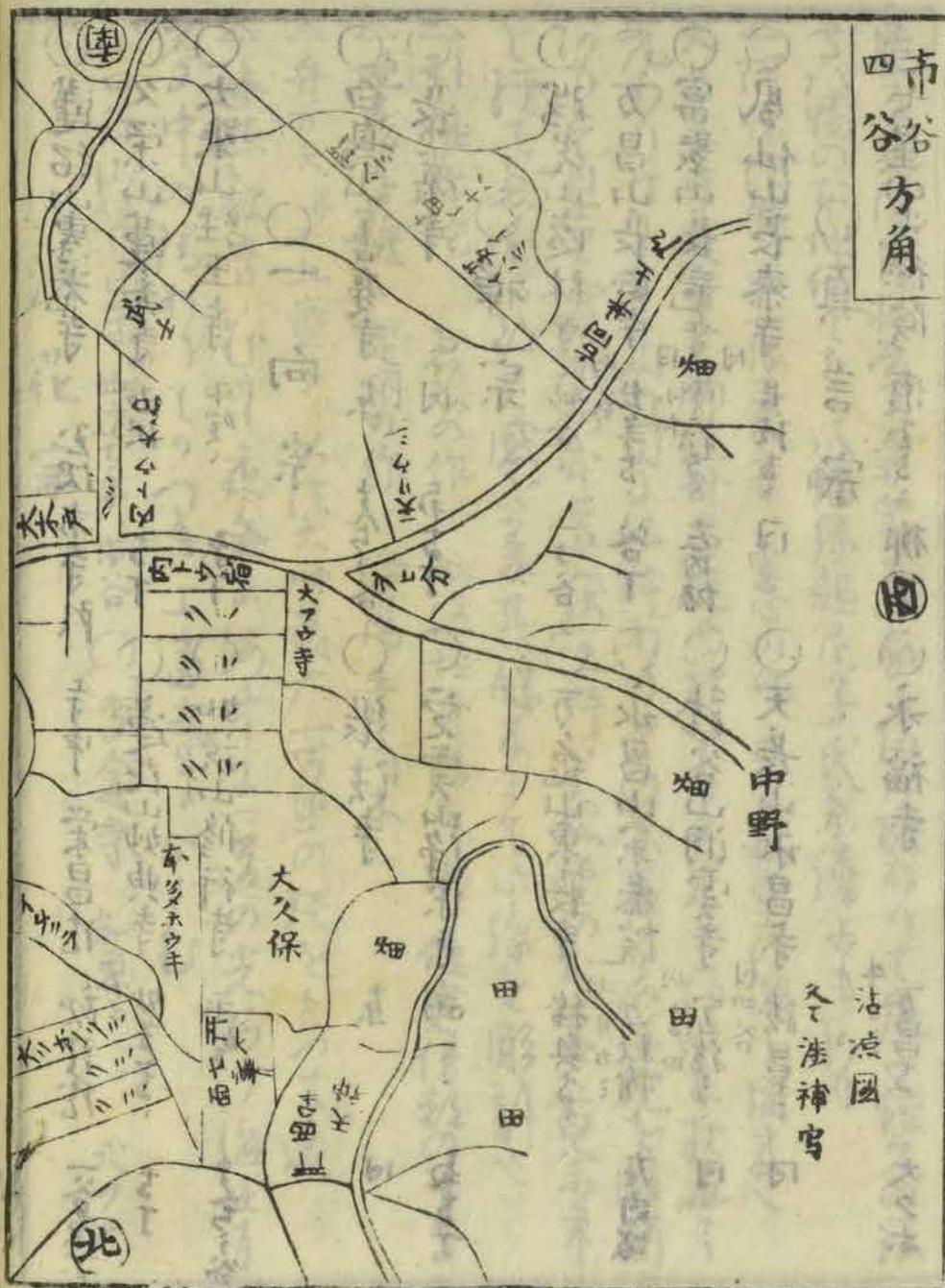
○七星山光德院 複数、 柳丁 ○永福寺

牛コニ

万昌寺、 大クホ

市谷方角

沾涼圖



(十三) 四谷

内藤宿
佐目河橋

大木戸
千日谷

新宿
千駄谷

中野
高井土

- 四谷と云 千日谷 茄荷谷 千駄谷 大上谷の四谷
前坂右のあへ もれより千日谷 御入園よりけり後よ峰くら
名をむち名ふかくいはといひ此余も谷ハタチ一四谷ハナミ
名をすく一水深天正きては邊すて霞村とひきよ一古記よ
アシヤクレ又一説古むす一やま縁て東山へうれのあへりもあ
四ツのアシヤクレ四家とひきよもは敷多リ小く実とすへくや
○四谷御門 麻町十丁目よりは御門の外と四谷とりよ
十一丁目十二丁目十三丁目ハ此所赤坂より御門へとせざれ
一とき代比と御門外より下され三丁ハ四谷のうちよかる
○紀伊国坂 紀州御館の北のへり坂
前坂左のあへ今ハ赤坂へりる方南の坂ときたりそ
○間の馬場 仲夏町より南行坂はのまことりよ

